

## 川崎支部便り 第76号 (2024年04月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：河合・山岸)

## 人生を豊かに (雑学のすすめ)

【飲んではいけない飲み物－あなたも飲んでますか？】

- ① (アセスルフアム K) リンパ球の減少や GPT (肝機能障害) の増加(実験結果)。
- ② (スクラロース) 胸腺や脾臓のリンパ組織の萎縮、流産 (実験結果)。
- ③ (金の微糖－A 飲料) 乳化剤で発がん性の可能性 (2008 年に認可の「ホリスルベート 60 と「ホリスルベート 80」)。
- ④ (FIRE 挽きたて微糖－K 飲料) アセスルフアム K とスクラロースが含まれます。
- ⑤ (コカ・コーラ－C 飲料) 酸味料にリン酸が含まれ、摂取しすぎるとカルシウムや鉄の吸収が悪くなる。糖分が、1 本 (500ml) で約 56gr (大匙約 6 杯の砂糖)。
- ⑥ (ペプシネックス－Pi 飲料) 食品原料無しのオール添加物飲料。甘味料のアスパルテームが人間に脳腫瘍を引き起こす可能性を指摘。
- ⑦ (アクエリアス－C 飲料) 合成甘味料にスクラロースが含まれている。
- ⑧ (ウコンのカ－H 食品) 増粘多糖類の内容が未記載。アセスルフアム K とスクラロースを使用。肝機能を高めるかは不明。
- ⑨ (キリンゼロ (生) －K 飲料) アセスルフアム K が含まれ、アルコールと甘味料で肝臓に影響。

## 川崎点描：川崎支部活動拠点

【(日本の道路のルーツは？ 川崎市を横断する道－津久井道とは？) ⑥】

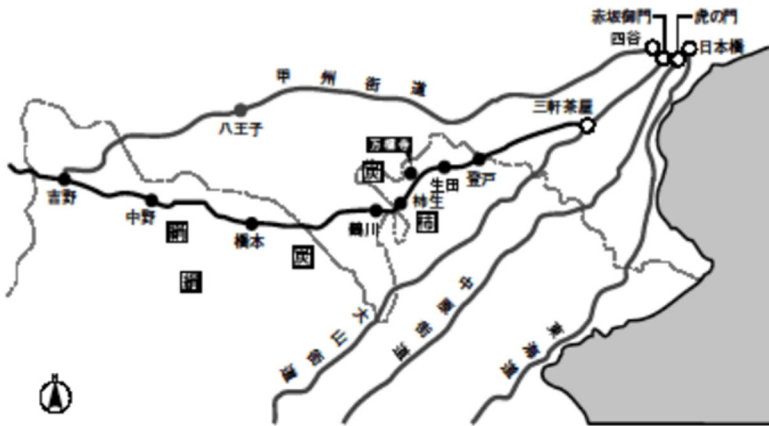
(津久井街道とは？－概要)

旧津久井道は生田・柿生・鶴川に向かい、その先の鶴見川上流に沿って橋本から津久井地方に至る江戸時代からの道で、東は多摩川を渡り三軒茶屋で大山街道と合流して赤坂御門まで続いている道です。近隣の産物を江戸へ運ぶ流通の道、商人や職人の往来する道として使われ、登戸周辺は宿場、商店(下駄、提灯、畳、馬具等)、居酒屋、宿屋が軒を連なり、賑わいや交流など活気に溢れていました。

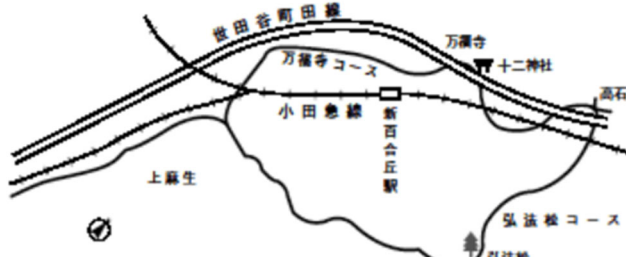


(上の図の青色線が津久井道)

津久井道は明治時代から大正六年の地図によると、現在の世田谷町田線の万福寺と高石の境付近から弘法松を通り上麻生へ抜ける**弘法松コース**と、それよりも新しく出来た道で、追分の坂を下り十二神社の近くで世田谷町田線を横切り区役所の北側を通りしばらく進んで小田急線の高架をくぐり抜ける**万福寺コース**がありました。しかし、**万福寺コースの道は地盤が悪かった**ので、人々は弘法松コースの方を利用していましたが、大正十年にこの地域で陸軍の大演習が行われ、その際**大砲等の重機を運搬**出来るようにと、万福寺コースを整備してからは弘法松コースにかわり**万福寺コースが本道**になりました。



江戸時代街道図



弘法松コース・万福寺コース

(津久井街道と諸々の道の起源)

実は津久井街道がいつ頃から出来たか、はっきりしていません。皆様のご意見は如何でしょうか。以前ご紹介した「道」の話で、古代から道は「獣（けもの）道」が発展したことをご紹介しました。しかし、地球上に人類が住み始めて、生きるため「獣道」で獣類の狩猟や、食べられる実、果実、草類、魚や鳥類を探して往来していると、通った道がいつの間にか踏み均されて道らしき物が出来てきます。日本の旧石器時代、縄文時代に隣の集落や遠くの集落と往来し、日本列島に石器類や土器類が使用され始めると、広範囲に広がって道が出来てきたと思います。

更に、弥生時代（紀元前 300 年～250 年頃）の後半から、水田耕作、青銅器や鉄器が大陸から伝わって来ました。当然、今までの道を往来して日本列島に伝わり、更に情報の交流が盛んになるにつれて道が完成していったと考えられませんか。

以前、「五畿七道」の話を紹介しました。現在の日本の幹線道路の基本になる道路を整備した内容です。大化の改新の改新事業の一つです、これが西暦 646 年（大化 2 年）以降に七道（東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道）の整備がされました。しかし、もっと以前の 4 世紀頃（西暦 300 年代）には日本武尊（やまとたけるのみこと）が東征で関東方面に来た時に、現在の東海道を通り西から駿河まで進み、更に相模の走水（はしりみず）（浦賀水道）を渡って千葉に入りました。この時、海が荒れて妃の弟橘媛（おとたちばなひめ）が海に身を投げることで海を鎮（しず）め、無事に日本武尊を千葉に渡らせたそうです。当時は現在の鎌倉あたりから川崎方面には、東京湾に注ぐ河川や湿地帯が多く、道路は有っても整備技術がないので、現東京方面には中原街道（当時の名称は不明）が使用されたと考えます。

海に身を投げた弟橘媛（おとたちばなひめ）を祀っているのが川崎市高津区子母口の橘樹（たちばな）神社で、流れ着いた衣服や冠を祀っています。橘樹神社は古くには立花杜とあり、「村の西に寄てあり、祭神は日本武尊、弟橘媛の二神なり・・・」と古書にも書かれています。

この様に「道」は古代から幹線、脇道、生活に必要な道、情報伝達等、様々な道が多くあったことは想像出来ます。津久井街道もいつの時代に出来たかは不明ですが、古（いにしえ）から時代の変化と共に、大切な道になっています。人々の往来が多くなったのは、江戸時代からです。

### （街道って何？）

街道とは「町の中の広い道」との意味です。田畑、山や隣の部落への道と比べると、町と町をつなぐ道は現代の整備された道よりは狭いのですが、明治時代以前の道の中でも幅の広い道だったのです。これを「街道」と称したのです。

津久井道を含めて、古から川崎市を横断して江戸幕府を盛り立てた道として、また日本の重要な道路として東海道を支えた中原街道、大山街道（後日紹介します）、今回の津久井街道は、古から鎌倉街道、東海道、甲州街道等を補佐しています。道は相互につながって助け合っているのも事実です。

（画像は Yahoo Japan から引用）

## 支部の活動

- ① 2024 年 2 月 24 日（土）：横浜市の日吉台地下防空壕の見学会は日吉台地下防空壕保存会の説明で、川崎支部会員がご夫婦で参加しました。戦艦大和の地下 30m の出撃発信基地です。
- ② 2024 年 3 月 23 日（土）：世田谷区砧公園（世田谷美術館もあります）で、お花見を開催しました。今年は雨が多く、桜の開花が 3 月末と遅くなりました。お弁当と飲み物で、楽しい交流が図れました。

ご存じですか

【京大アメフト部の名将・水野彌一監督からの言葉？】

京都大学理事の野崎治子さんが京大アメフト部を4度の日本一に導いた名将・水野彌一監督から言われた言葉です。アメフト部に入部してからすぐに、「マネージャーの仕事はユニフォームを洗濯することではない。部員が自分でユニフォームを洗濯するように、環境を整えることや」と。自分で動くのではなく、他の人が快く動けるように環境を整えることがマネージャーの仕事と刷り込まれたそうです。「いまの人は短絡的にコスパだとかタイパ（時間対効果）を意識して、すぐに To Do に走りがちやけど、大事なのは To Be や。To Be を目指す哲学を持って」、この教えは特に残っているそうです。

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa\_matsu51@v00.itscom.net